

神の物理学の理論に基づいた新しい生物学

ボジダール・パリウシェフ

ブルガリア科学アカデミー教授

前の論文で、私はいくつかの一般的な問題を示して、新しい理論を創造する必要性を強調し、今まで無視されていた基礎物理学の諸事実について説明しながら、全般的に考慮すべきいくつかのことを示した。この論文で、私はねじれフィールドの理論としても知られている神の物理学の新しい理論の理由を概観しながら、生物学全般に関する新しい概念を開発する必要性を創造するいくつかの追加的に考慮すべきことを示すつもりである。

一般的に、その新しい理論は新しい型の根本的な物理的相互作用であるねじれの相互作用（すなわちそれはエネルギー型のフィールドの作用であるが、）について明確にしてくれる。そのような新しいタイプのフィールドを仮定することは、物理学の現実の様相を信じられないほど複雑にする。しかしながら、そのことは生物系におけるデリケートな諸関係の中に主として表れており、また、生物学の情報メディアの二元的な本質（その基本的な代表が **irNA** の分子であるが、）によって決定される。

この分子及び **DNA** の分子は、遺伝情報の物質及び波動の分割と統合のための独特のシステムであり、それは他方においては生物有機体の一般的な調和において互いに役立っている。実験の諸条件で発見される物質コードの複雑な性格は、ゲノムの情報、エネルギー装置の精密さからは除去され、電磁波及び音波の振動のみに減少する集団的共鳴やレーザー・ホログラフイー（結合した、文脈上の、イメージ的な）有機的な細胞構造内のメカニズムの効果と決して同一視することはできない。（1）

量子物理学の説明は、ガリアエフ（**Garyaev**）のような学者によって受け入れられているが、これは最高の有機体のゲノムについて、エネルギーと波のフロントによって空間がカバーされている生物系の時間空間構造の形成体であるモデルによる独特のソリトン・バイオホログラフィックなコンピューターとして描いている。それらは、ホログラフイーの遺伝子の構造、**DNA** のソリトンの状態から発する独特のタイプの音波と電磁波--有機体の遺伝装置によって作られ、生物の本質的な情報の交換における仲介的及び制御的機能をなすことができる、これらのシステムの細胞、組織、および器官の構造、機能、および状態を示すグループによって割り当てられる。

このように、有機体の全体的なエネルギーは、むしろ複雑で、音波と電磁波の直線形の結果として、特に不安定な性格を獲得するが、生物学的構造の観測された複雑かつハーモニックな機能について説明することはできない。ホログラフィックの格子（有機体の染色体に含まれる単なるコード・イメージの特定のケースに過ぎないものを含む変動するソリトン構造の組成物の中に入るものを含む）がどのようにして彼らの動作を充足できる、生物有機体にとっての特

徴である必要な安定性と調和を確保し、それらの行動を完遂することができるのかを私たちは想像することができない。

ゲノムが物質に働くだけではなく、ゲノムの物質構成物間の連結の基礎となる、直線的な型の力によってのみ決定される波形レベルにも働くことを認めるなら、私たちは生物有機体の調和と安定性について説明することができない。これまでの事実から、物質の構造としてのゲノムは生物有機体の組織及び正常な機能を実現するには十分でないことになる。本質的に非線形のなんらかの新しい相互作用を導入することが必要である。この任務は生物系の構造形成における第2のエネルギーのレベルである、ねじれの相互作用によって達成される。

このように、染色体の構造の波及び物質のレベル間には急激な抗しがたいバリアは存在しないことを理解することが重要である。しかしながら、これらの2つのレベルは、いわゆる物質マトリックスの形でその目的を実現し、その結果、遺伝子は両方のエネルギー・レベルによって既に影響される物質的な対応をすることによって反応する。両方のエネルギー・レベルとは、エネルギーのみでなく、何らかの外的な源泉（神）から来る特別な情報も持つ電磁波と音波の相互作用の直線的なものとなじれと呼ばれる非直線的な相互作用のことである。

この協働する効果の結果、遺伝子は、RNA とタンパク質の形で厳格に制御された物質的対応をすることによって対応し、他方、スーパー遺伝子と呼ばれる最も高い構造的なレベルの遺伝子はそれを通り抜ける波を物理的な場に変え、それらの助けを得て、新しいタイプの空間的・時間的な波の構造を形成する。その上、遺伝子はスーパー遺伝子のホログラフィーの格子の構成物であるかもしれないし、それらのフィールドでの活動を規制するかもしれない。

このようにスーパー遺伝子は、外的な源泉の情報で調整されて、電磁の場と音の場の安定した複合体を発生させることができ、生物有機体に必要な安定性と調和を促進する。この点において、極めて意義深いひとつの発見は、一方において DNA の配列の構造をそれら自身の中で及びさまざまな範囲において繰り返すことと、他方において人間の言葉との一体化が実体化するという点である。両方の場合において、その言葉にはフラクタル構造を伴う意味のある形を持っていることがわかる。

1990年にアメリカの科学者ジェフリーは、DNA テキストの遺伝子コード（アデニン、グアニン、シトシン、チミン）のアルファベットの4文字が人間の言葉におけるフラクタル構造に似たフラクタル構造を形成するのを示した。そのような特異性は手紙、いくつかの言語（例えば、ロシア語と英語）の文字構造の中だけでなく、明確な文章内の単語の順序においても発見された。

これが「言語の遺伝学」と呼ばれる新しい科学の出現の理由になる。その研究主題は様々な単語構造内及び構造間の形成に対する形式遺伝法則の伝統的な科学の適用性に関する説明不可能性である。これに基づいて、人間及び遺伝子言語の一般的なフラクタル・プレゼンテーションの一つのモデルが念入りに構成された。(2)

そのような観点から見ると、ゲノム内の DNA のテキスト構造は、「単語」の潜在的に無限の蓄えを持つ特異な疑似言語である。タンパク質内のアミノ酸の配列は、正しく観察した結果、任意的（偶然的）な配列を実現する機械的なアルゴリズムによる文字配列の単純化されたモデルに従属しているのではなく、むしろフラクタル構造に置かれた意味のある内容から生じる明

確な意味実現のプロセスである。例えば、タンパク質内のアミノ酸の配列の意味的特徴は、外部の源泉が生物有機体の構造と機能の安定と調和にどのように関わっているかを示している。言い換えれば、外部の源泉（神）の言葉を通して、ゲノム内の情報を生物有機体の全体構造に変え、安定性と調和の状態におけるプロセスをコントロールすることが可能になるかを説明するための主要な点に徐々に到達したのである。

これらすべてのことは聖書に書かれている以下のことを確認するようになる。

「初めに、言葉があった。」（ヨハネ福音書 1:1）

ゲノムの染色体構造の中に含まれている意味的コンテンツの発見は遺伝子工学の拡大をもたらすことができる。遺伝子及び言語のフラクタル構造間のリンクに関する仮説の実験的検証によって、科学者たちは特定のデバイスを発明することを余議なくされた。それはフェルミ-パスト-ウラムのフィールドと呼ばれるソリトン・フィールドのジェネレーターで、その助けによって外部の情報源の影響（話された人間の言語）の導入が可能となり、そのようにして非言語的アルゴリズム化されたゲノムの構造を調節するのである。このようにして、言葉（言語）の構造をソリトニックな調節されたフィールドに変換することができ、それらに似て、コミュニケーションの自然なプロセスにおいて生物の細胞が作動する。

ここで私は、生きた生物系を創ることのできる本当の外部の情報源は神の言葉のみであり、人間の話し言葉ではないという事実に注目を引かなければならない。これらの 2 つの意味ある構造の情報内容は根本的に異なっている。人間的要因はいかなる方法でも生命の創造者の神的要因に置き換えることはできない。何故なら人間自体が被造物であるからである。人間は神の言葉によって創られたゲノム構造に含まれる本来の情報を操作することができるだけである。

これらのすべての真剣な考慮は、諸生物系間の通常のコミュニケーション・プロセスが物理的なエネルギーのフィールドの普通のメカニズムのみに基づいていて、量子力学の諸法則に支配されるものであるか、あるいは、それは既に知られている量子諸力の意味を超えて、何らかの新しい根本法則に従属しているのかという疑問は、神の物理学の理論の枠組みの中で説明されており、我々が「ひねりのフィールド」と呼ぶ実在する新しい根本的なフィールドの存在を想定することによってのみ解決できるという考えを課すのである。この理論は神的な源泉から来る情報の中にある質的に新しい種類の物理的な力について説明する。そして、すなわち、言語的テキストのフラクタルなプレゼンテーションと遺伝情報の間に見出された類似性の事実は、この内容豊富な理論を構築するための主要な議論を我々に与えてくれるのである。

参考文献

1. P.P. Gariaev. The Introduction of Electromagnetic Waves and Information Biomacromolecules.

"The Antenna Model", Laser Research.

2. M.V. Masnev, P.P. Gariaev. "Fractal Presentation of Natural Texts and Genetic Code" QUALICO - 94. Sept. 1994, MGY, p.107.